

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-780	24-077	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Acute alcohol consumption and arrhythmias in young adults: the MunichBREW II study 若年成人における急性飲酒と不整脈 : MunichBREW II 研究		
執筆者		
Brunner S, Krewitz C, Winter R, von Falkenhausen AS, Kern A, Brunner D, Sinner MF.		
掲載誌		
Eur Heart J. 2024 Dec 7;45(46):4938-4949. doi: 10.1093/eurheartj/ehae695.		
キーワード	PMID	
飲酒、不整脈、心電図、ホリデー・ハート症候群、自律神経系	39363568	
要旨		
<p><b>目的:</b> 急性の過度な飲酒は、心房細動などの不整脈を引き起こす「ホリデーハート症候群」として知られているが、その発症の時間的経過に関する前向きデータは限られている。本研究では、若年成人における大量飲酒後の不整脈の発生とその時間的推移を前向きに評価した。</p> <p><b>方法:</b> ドイツ・ミュンヘンの LMU 大学病院にて、2016 年から 2017 年に急性飲酒（呼気中アルコール濃度(BAC) <math>\geq 1.2</math> g/kg) を予定している健康成人 193 名を解析対象とした。48 時間のホルター心電図を装着し、飲酒前、飲酒中（1–5 時間）、回復期（6–19 時間）、および「飲酒期間」、「回復期間」からそれぞれ 24 時間後に相当する 2 つの対照期間を含め平均心拍数、心房頻拍、心房期外収縮 (PAC)、心室期外収縮 (PVC)、および心拍変動を評価した。呼気 BAC も定期的に測定した。統計解析には混合モデルと線形回帰を用い、年齢・性別・BMI で調整した。</p> <p><b>結果:</b> 飲酒中は平均心拍数が <math>89.5 \pm 12.6</math> bpm から <math>97.0 \pm 16.2</math> bpm へ有意に上昇 (<math>P &lt; 0.001</math>) し、心房頻拍の割合も増加した。心拍変動の解析により、自律神経活動の変調が示され、飲酒中およびその後の回復期には交感神経の活性化が優位となり、その後は副交感神経の優位性が回復する傾向が確認された。PAC は対照期に有意に増加し、PVC は飲酒期に多く観察された。10 名 (5.2%) に臨床的に重要な不整脈（心房細動、心室頻拍、房室ブロック）が発生し、その多くは回復期に認められた。</p> <p><b>結論:</b> 本研究は、急性飲酒が心拍数の上昇と心房頻拍を引き起こし、回復期に臨床的に重要な不整脈が発生することを明らかにした。これらの結果は、ホリデーハート症候群が若年健康者においても無視できない健康リスクであることを示しており、飲酒による自律神経系の調節障害が不整脈の誘因となる可能性が示唆された。</p>		